

第1学年 国語科学習指導案

児童 男子9名 女子9名 計18名
指導者 根反 律子

1 教材名 大きな かぶ

2 単元について

■指導事項（新学習指導要領）■

- 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 <読むことーア>
- 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 <読むことーウ>

(1) 児童の実態

児童はこれまでに、「はなのみち」「おむすびころりん」などで挿絵や言葉を手がかりにして、登場人物の行動や気持ち、場面の様子を想像して読み進める学習をしてきた。その結果、登場人物の気持ちを想像して簡単な言葉で発表することはできるようになってきている。しかし、吹き出しなどに登場人物の気持ちをまとめて書くことには、まだまだ時間がかかり、個人差も大きい。吹き出しに書いたことを対話を通して伝え合う活動も行ってきたが、語尾までしっかり話したり、話し手を見て、話の内容の大体を聞き取ったりできる子どもはまだ少ない。また、相手の話したことに対してうまく応答できない子も多い。音読については、毎日、家庭音読に取り組んでいるが、声の大きさや口形に気を付けたり、語や文のまとまりに気を付けたりして音読することのできる子どもは、まだ半数程度である。

(2) 教材について

本教材は、おじいさんが蒔いたかぶの種が、願い通りあまい大きなかぶに育ち、収穫するという話である。なかなか抜けないかぶをみんなで力を合わせて抜いたことにより「収穫の喜び」「協力の大切さ」を、小さなねずみの力が加わったことにより抜けたことから「小さなものの力の大切さ」を教えてくれる作品である。文章表現の面から見ても、繰り返しのあるリズムカルな文章であり、児童にとって親しみやすいものである。繰り返しの部分は単純な繰り返しではなく、言葉が微妙に変化する。ことばの持つおもしろさや繰り返しによって生まれるおもしろさを感じ取りながら、読む楽しさを味わうことができる教材である。

(3) 指導にあたって

みとおす（導入）段階では、全文を読み、物語のあらすじをつかみ、初発の感想を発表し合う。その際、学習の最後には、まとめとして音読発表会を行うという目的意識を持たせ、意欲的に学習を進めていけるようにする。

ふかめる（展開）段階では、場面毎に動作化を取り入れながら、おじいさんを中心に登場人物の気持ちを想像させ、吹き出しに書かせていく。吹き出しに書いたことはペアで交流し、その後、全体で発表し合い、読みを深めていく。読み取りを進めていく際には、場面のみを読むのではなく、文章全体を意識した読みができるようにしていく。

まとめる（終末）段階では、これまで学習してきたことを生かして、グループ毎にせりふや動作を加えて練習し、「大きなかぶ」の音読発表会を行うようにする。

(4) 研究との関連

本単元では、「交流を通した言語活動」として、「登場人物の気持ちを想像し、ペアで交流し、その後全体で交流する」場と「グループ毎にクラスの前で音読を発表する」場を設定する。交流の際には、登場人物の気持ちを吹き出しにまとめ、それをもとに発表し合うようにさせたい。自分の書いたものと比べて同じところ、違うところに気を付けて聞き合うようにさせたい。また、音読発表会を行う際には、自分たちで考えたせりふや動作を入れ、工夫して発表し合うようにさせたい。

本単元で身につけさせたい言語能力 ■ 文学的文章（物語文）
○ 叙述から想像する力

3 単元の目標

声に出して読んだり場面の様子を想像したりして、繰り返しながら高まっていくお話の展開や言葉のリズムを楽しむ。

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・「それでも」「やっぱり」「まだまだ」「なかなか」という表現や登場人物の出てくる文章のおもしろさを楽しみながら、意欲的に読もうとしている。	・かぶを抜いている様子やその時の気持ちなど、想像を広げながら読んでいる。 ・繰り返しの言葉や文章のリズムを考えながら、声に出して読んでいる。	・だれが何をしたか、主語と述語を確かめて読んでいる。

5 学習指導計画及び評価規準 (全9時間)

段階	主な学習活動	評価規準	交流を通じた言語活動
一次 (導入)	学習の進め方を知り、見通しをもつ。 ・全文を読み、物語のあらすじをつかみ、初発の感想を発表する。 ・学習のまとめとして、音読発表会をするという見通しをもつ。 ①	・初発の感想を発表し、話の大体を捉えている。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 初発の感想を発表し合う。 </div>
二次 (展開)	場面毎に登場人物の気持ちを読み取る。 ・かぶの種をまいたおじいさんの願い、大きなかぶができたときのおじいさんの思いを読み取る。 ① ・かぶを抜こうとするおじいさんとおばあさんの様子や抜けなくて困っている二人の気持ちを読み取る。 ① ・まご、犬、ねこが加わって、かぶを抜こうとする様子や抜けなかった時のおじいさんやみんなの気持ちを読み取る。 ② ・ねずみが加わって、やっとかぶが抜けたときの様子と、おじいさんやみんなの喜びの気持ちを読み取る。 (本時2/2) ②	・おじいさんの願いやそれがかなった時のおじいさんの喜びを読み取っている。 ・かぶを抜こうとする様子や気持ちを想像している。 ・みんなの願いや落胆の気持ちを読み取っている。 ・収穫の喜びや協力、小さな力の大切さを読み取っている。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> かぶを抜こうとするおじいさんやそれを手伝うみんなの気持ちを吹き出しに書き、交流し合う。 </div>
三次 (終末)	音読発表会をする。 ・グループごとに役を決め、せりふや動作を加えて発表をする。 ②	・場面や登場人物の気持ちなどを想像し、表現を工夫して発表している。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> クラスのみんなの前で、音読を発表し合う。 </div>

6 本時の指導

(1) 目標

ねずみ加わって、やっとかぶが抜けたときの登場人物の気持ちを読み取ることができる。

(2) 展開

段階	学習内容と学習活動	指導・支援と評価
みとおす (5)	<p>1 前時までの学習を振り返る。</p> <p>2 本時の学習課題を確認する。</p> <div data-bbox="459 546 1058 645" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> かぶがぬけたとき、おじいさんはなんと言ったでしょう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・かぶが抜けなかった時のみんなの落胆の気持ちと再挑戦の気持ちを想起させる。 ・自分が考えた登場人物のことばを入れて、後日音読発表会をすることを確認する。
ふかめる (30)	<p>3 学習場面の音読をする。</p> <div data-bbox="427 734 762 779" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 交流を通した言語活動 </div> <p>4 かぶが抜けた時のおじいさんの気持ちを交流し合う。(ペア交流)</p> <div data-bbox="260 869 799 1249" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto;"> <p><交流の際の話型></p> <p>A：わたしは、おじいさんは「 」と言っていると思います。</p> <p>B：わたしもAさんと同じで(違って)、おじいさんは「 」と言っていると思います。Aさんはどうしてそう思ったのですか。</p> <p>A：「 」だからです。Bさんはどうしてそう思ったのですか。</p> <p>B：「 」だからです。</p> </div> <p>5 かぶが抜けた時のおじいさんの気持ちについて発表し合い、まとめる。(全体交流)</p> <p><うれしい></p> <ul style="list-style-type: none"> ・とうとう、ぬけたぞ。 ・やったあ、大きなかぶだ。 <p><みんなのおかげ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・やっとな、ぬけたぞ。みんなのおかげだ。 ・やったあ、みんなでがんばってよかった。 <p><小さなちから></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ねずみくんは、小さいのに力もちだなあ。 ・ねずみくんのおかげだよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・口形に気を付け、はっきり音読させる。 ・前時に書いた吹き出しをもとに、交流させる。 ・自分と同じところ、違うところに気を付けて、聞き合うようにさせる。また、どうしてそう思ったのか理由を考えさせるようにする。 ・本時の場面のみにとらわれず、全場面を通した読みができるように意識させる。 ・交流がうまく進んでいないペアには、話型をもう一度確認させるようにする。 ・ペアで交流したことをもとに、発表させていく。 ・「収穫の喜び」「協力の大切さ」「小さなものの力の大切さ」について、考えをまとめていくようにする。 <div data-bbox="831 1451 1445 1608" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p><評></p> <p>ねずみ加わって、やっとかぶが抜けたときの登場人物の気持ちを読み取っている。</p> </div>

ま と め る (10)	6 学習場面の音読をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・「うんとこしょ、どっこいしょ」の読み方に気を付けさせる。 ・学習したことをもとに、代表の子にせりふ（吹き出し）を発表させる。
	7 学習のまとめをする。 ・本時の学習をふりかえって、感想を発表する。	
	8 次時の学習内容を確認する。	

(3) 交流場面の設定

項目	内 容
場面・形態	ペア→全体 登場人物の気持ちを交流し合う。
ねらい	友達に自分の考えを伝えることで、自分の考えを明確にする。 自分と同じ考えや違う考えを聞くことで自分の考えを深める。
留意点	相手に聞こえるようにはっきり話すことと、相手が話したことをしっかり聞くことを意識させる。
教師の働き	話すことが苦手な児童や交流が成立していないペアの支援にあたる。

(4) 本時の具体的な評価

A 十分に満足できる	B おおむね満足できる	努力を要する場合の手だて
「収穫の喜び」「協力の大切さ」「小さなものの力の大切さ」に気付き、登場人物の気持ちを話している。	「収穫の喜び」「協力の大切さ」「小さなものの力の大切さ」の中のどれかに気付き、登場人物の気持ちを話している。	友達の考えを聞いて、自分の考えと同じところ、違っているところに気づくように声かけをする。